

—6回目:ソーシャルスキルとは?—

鳥取大学医学部 井上雅彦研究室

今日のメニュー

- 前回の復習(問題行動)
- ソーシャルスキルとは?
- ストラテジーシートの作成



1. 前回の復習



問題行動への対応方法

- ①問題行動を具体化する
 - あいまいな表現でなく、具体的な表現で誰にでもわかるように。
- ②問題行動の機能を考える
 - 問題行動は子どもの言葉のかわり。何らかの意味のある行動。
- ③対応方法を考える
 - ストラテジーシートを利用すると便利。

1. 具体的化する

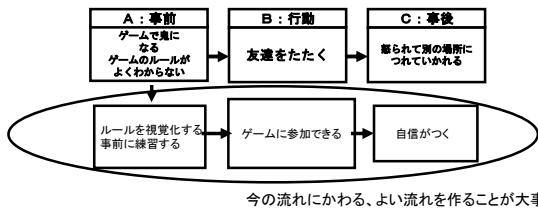
- 具体的な行動を記述する
 - 「パニックをおこす」→テレビを消すと床に寝ころんで泣き叫ぶ
- 「～しない」は行動ではない
 - 「片づけをしない」→片づけをするように声をかけても遊び続ける
- 抽象的な言葉やあいまいな言葉は使わない
 - 「乱暴な性格である」→滑り台で遊んでいるときに前にいるお友達をおす

2. 困った行動の機能を知る

- 困った行動が維持されるには意味(機能)がある
 - ①「ものや活動の要求」の機能
何かがほしい、何かがしたい
 - ②「注目の要求」の機能
自分に関心をもってほしい、かまってほしい
 - ③「逃避・回避」の機能
その状況が嫌、逃げ出したい、やりたくない
 - ④「自己刺激(感覚)」の機能
退屈、自己充足
 - ⑤「自己防衛」の機能
自分に自信がない、自信がないことを知られたくない

3. 対応方法を考える

- 問題行動の機能がわかつたら、その機能と同じ機能をもつ、適切な行動を教える。
- ストラテジーシートを利用して、よい流れになるよう、事前・事後の工夫を考える



2. ソーシャルスキル



ソーシャルスキル

- 社会の中で人とうまくかかわっていくために必要な方法のこと。
- 社会の文化を背景として、本来は人との関わりの中から自然と身についていくもの。
- ソーシャルスキルは自立のための大きな目標となるもの。
- ソーシャルスキルをうまく利用することができると、人とのよい関わりを経験できる。→自尊心も高くなり、本来もっている力を発揮できる。

さまざまなソーシャルスキル

- 仲間との関係を保つスキル
 - 相手を誘う、手助けを申し出る
- 自分をコントロールするスキル
 - 感情のコントロール、葛藤場面での妥協
- 相手の話をきくスキル
 - 話の聞き方
- 相手にあわせるスキル
 - 自分と意見が違ったときの反応の仕方、相手の話題にあわせる
- 自分の話を伝えるスキル
 - 自分の話を聞いてもらうための話し方、会話を続ける方法

発達障害児の場合

- 知能や言語だけでなく、ソーシャルスキルの獲得が大きな問題になることが多い。
- ソーシャルスキルは人のフリを見ながら覚えられるもの（モーデリング：観察学習）だが、人と接する経験が不足するなどの学習の機会は失われ、社会性が身に付かない。
- 発達障害児の場合には人と接していてもモーデリングから社会性を獲得することが難しいことが多い。

→「心の理論」障害説

心の理論

- 他者の心の動きを推測したり、他者が自分とは違う信念をもっていることを理解すること。
- 一般的には4歳～5歳には心の理論は獲得できるといわれている。
- 自閉症の子どもたちは心の理論の獲得が遅れることが多いということがわかっている。
- ミラーニューロンが大きく影響している。

ソーシャルスキルトレーニング

- 必要なソーシャルスキルは自分の属している社会によってかわってくる。
- 社会で円滑に人間関係を保つためのスキルをトレーニングによって獲得する方法がある=ソーシャルスキルトレーニング(SST)
- さまざまなソーシャルスキルトレーニングがある
 - スクリプト(シナリオ)を使ったSST
 - 絵カードを使ったSST
 - ソーシャルストーリー(文章を使ったSST)
 - コミック会話(漫画をつかったSST)
 - 認知行動療法

SSTのステップ

- ①インストラクション(教示)
- ②モデリング
- ③リハーサル
- ④実行
- ⑤フィードバック
- ⑥般化と維持

スクリプト(シナリオ)を使ったSSTの例

対象児

- 幼稚園に在籍の年長男児
- 指導開始時
 - 生活年齢5歳9ヶ月、発達年齢5歳6ヶ月、発達指數95
 - 知能指數
 - 田中ビネー検査 IQ93
 - WISC 全IQ68、言語IQ58、動作性IQ85
 - ことばの遅れが目立ち、言語指示が入りにくかった。また、遊びへの積極的参加や仲間とのやりとりはほとんど見られなかった。

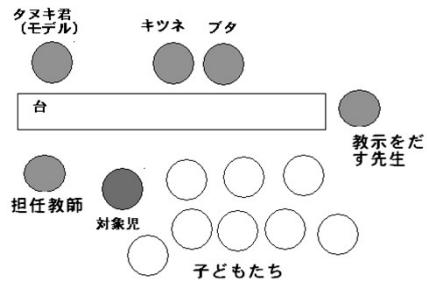
指導の流れ

- ①事前の行動観察
 - 自由遊び場面で他児にどのようにかかわっているのかを観察
- ②社会的スキルトレーニング
 - 1. 問題場面の提示
 - 2. 問題解決方略の検討
 - 3. モデル提示
 - 4. リハーサル(モデルあり)
 - 5. リハーサル(モデルなし)
 - 6. フォローバックの確立
- ③事後の行動観察
 - どのように変化したのかを①と同じ場面で観察
- ④2ヶ月後の行動観察
 - 2ヶ月後にはどのように変化したのか、維持されているのかを観察

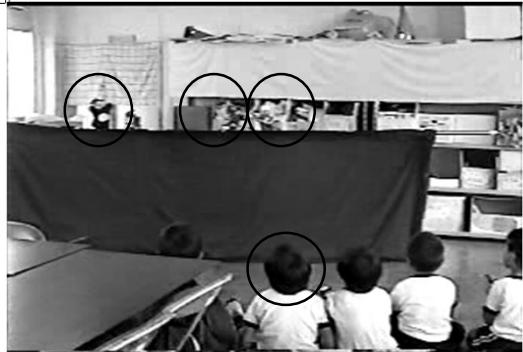
①事前の行動観察(ベースライン)



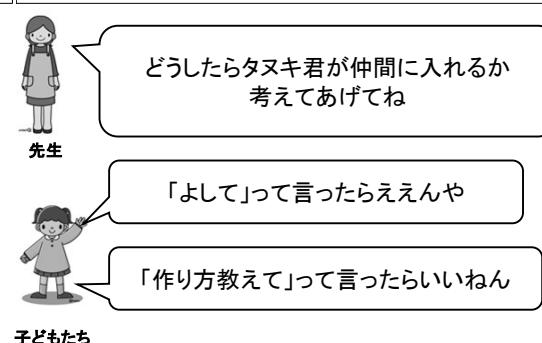
②社会的スキルトレーニング -1. 問題場面の提示-



②社会的スキルトレーニング
—1.問題場面の提示—



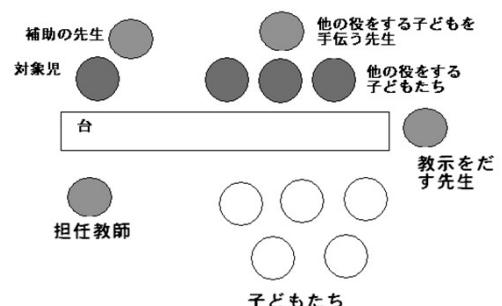
②社会的スキルトレーニング
—2.問題解決方略の検討—



②社会的スキルトレーニング
—3.モデル提示—



②社会的スキルトレーニング
—4.行動リハーサル(モデルあり)—



②社会的スキルトレーニング
—4.行動リハーサル(モデルあり)—



②社会的スキルトレーニング
—5.行動リハーサル(モデルなし)—



②社会的スキルトレーニング -6.フォローバック体制の確立-



園児たちへ
これからもみんな一緒に遊べるように
頑張ろうね！



先生へ
遊び参加場面での対象児や仲間に対する
「誘いかけ」や「モデル提示」を増やし、
できたときには両者に対してほめる支援を要請

③事後の自由遊び場面



④2ヶ月後の自由遊び場面



例:自分や人の感情がわかるようになろう

①感情を見分けよう



- ②鏡で自分しよう
- ③自分の日常生活でおこっている場面を抜き出し、感情を確認する
- ④さまざまな場面を絵で示し、そのときの他の人の感情を理解する
- ⑤なぜそのような気持ちになるのか、理由も考える。

絵カードによるSST

- 紙芝居形式の絵カード
- 問題場面を絵カードで提示し、どのように解決したらよいのかを考える



電車の中で大声で話していた。
どうしたらいいのか？



紙芝居を見ていたらおもしろくて、
立ってみてしまった。
みんなはどんな気持ち？
どうしたらいいのか？

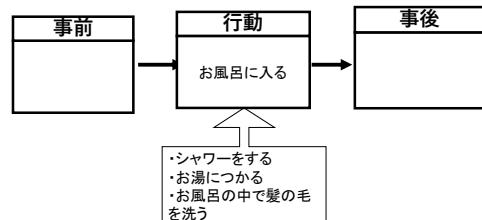
ソーシャルストーリーによるSST

- 小学校高学年の男児。主訴はお風呂に入れないこと。
- 今はどのようにお風呂に入っているのか？
- いつから入れなくなったのか？
- 今まで試してきた中でうまくいきそうだったことはあるか？
- ずっとお風呂に入らなかつたときの本人の反応は？
- 普段の予定はどのように示しているのか？
- お風呂に入る前にはだいたいどのような遊びをしているのか？

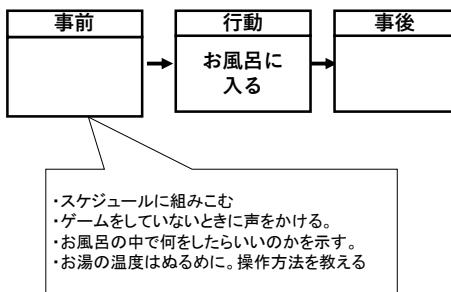
現状

- お兄ちゃんと入っていたときには入れていた。
- 一人で入るようになってから、急に入らなくなつた。
- お風呂に見に行ったときには、湯船につからず、洗い場で何もせずにしゃがみこんで時間をつぶしていた。
- 感覚過敏があり、熱いお湯は苦手。
- 予定は視覚的にスケジュール提示している。お風呂に関しては試したことがない。いつもは「お風呂よ」と声かけだけしている。
- 声かけをするときは大体がゲームをしているとき。

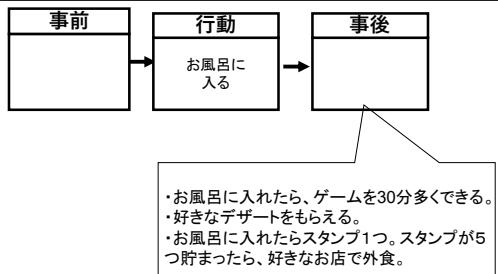
目標行動を決める



「事前」の工夫を考える



事後の対応を考える



「おふろ」について

おふろは「体」の頭子が下くないときには毎日はいります。

毎日おふろにはいって、髪の毛と体を洗います。

汗もたくさんかくし、目には見えない小さな虫がたくさん体についているので、寝る前にはおふろに入つて体と髪の毛をきれいにします。

おふろに入らないと、頭や体がくさなくてくるので、周りの人たちはとてもいやな気持ちになります。

おふろがほしいときはお水をたして、お湯の温度をぬるくしてもよいです。冷たいときにはあたたかくすることもできます。

おふろの入り方と体の洗い方はおふろに紙を貼るので、その通りにおこなえば大丈夫です。



マイソーシャルストーリーブック



絵と文字を融合したSST

- 雷がこわくて、天気予報で雷の予報が出ると外出ができなつたり、自分でネットで天気予報のページを調べて、雷の可能性があると知ると外出できないため、学校にもいくことができません。

□ 普段から大きな音はダメ。特に予期せずおきる大きな音は苦手。(赤ちゃんの鳴き声×、花火は我慢できるようになってきた)

□ 予期しないことはすべて苦手。

□ 絵本を作成して、色々な場面を想定して、対応を示してあげることが大切。

□ 雷がおこっていないときに、いざおこったときにどのように行動したらよいのかを学習する。

コミック会話(漫画を用いたSST)

□ 子どもに学ばせたい場面をぬきだし、コミックのように台詞を吹き出しえりたり、状況説明を加えたりしながら、どのように対応したらよいのかを視覚的に考えていく方法。

例:怒りをコントロールできるようになろう

① ぶんぶん計の理解

② 様々な場面での怒りの度合いの理解

③ 怒りへの対処方法を考える

例:声の大きさをコントロールできるようになろう

① 声の強弱の理解

② 声を使う練習をしてみよう。

③ 様々な場面での声の大きさの理解

4. ストラテジーシートを練習しよう

ストラテジーシートの作成

□ 自分の担当している子どものストラテジーシートを作成してみよう。

- 困っている行動を具体化する
- 現在の対応をあきらかにする(ABC分析)
- 望ましい行動を記入する
- 望ましい行動をおこなえるための事前の工夫を考える
- 望ましい行動をしたときのプラスの対応を考える
- それでもおこってしまったときの対応を考える